

かつしかの文化財 第92号

編集・発行 : 葛飾区文化財保護推進委員 葛飾区郷土と天文の博物館 Tel 03-3838-1101

松浦の鐘と松浦河内守信正

文化財保護推進委員 (水元地区)
生出 英朗

水元さくら堤の東寄りに保存されている「松浦の鐘」は都内唯一の「区が保有する梵鐘^{ほんしやう}」です。宝暦 7 年(1757)、旧下小合村(現、東金町)の領主であった松浦河内守信正が、自身の隠居寺であった龍蔵寺^{りゆうぞうじ}に奉納したもので、下野佐野^{いもち}の鋳物師利右衛門が製作しました。第2次世界大戦の際にも供出を免れ、昭和 52 年(1977)に葛飾区指定有形文化財として認定されました。

しかし、風雨に永年さらされた鐘楼の老朽化に伴い、4 本の柱と土台部分の修復工事が必要となりました。桜の開花時期に間に合うかのように、平成 30 年 3 月、修復作業を終えた鐘楼に梵鐘が帰ってきました。春爛漫^{らんまん}、満開の桜の花と白木の柱がインスタ映えし、「松浦の鐘」のアンチエイジング効果は満点でした。

松浦家は下小合村の領主として代々続いた江戸幕府の幕臣旗本で、河内守信正^{かわちの かつむね}(1695~1769)は 8 代将軍徳川吉宗の信任を受け、駿府町奉行・大坂町奉行・勘定奉行を歴任した後、長崎奉行に抜擢されました。「経済通のらつ腕奉行」として活躍しましたが、長崎在勤中、納米について幕府へ偽りの報告をしたという罪で閉門に処され失脚しました。

その後、罪を許され官を辞した晩年は、龍蔵寺を再興し信正院^{しんしょういん}と名付け、下小合村で余生を過ごしま

す。そして、明和 6 年(1769)に 74 歳で死去し龍蔵寺に葬られました。

旧下小合村の瑞正寺^{ずいしょうじ}には信正の木像や位牌、御持仏などが残されています。また、下小合村と同じく、信正の領地であった谷河内(江戸川区)の妙泉寺には信正の奉納した写経塔や肖像画が現存しています。



松浦の鐘と桜(2018年3月撮影)

参考文献 : 文化遺産オンライン(<http://bunka.nii.ac.jp>)

猫の足あと 東京都寺社案内(https://tesshow.jp/shrine_index.html)

長崎歴史文化協会研究室編 加藤健著

「ながさきの空 長崎歴史文化協短信 -江戸近郊における松浦河内守信正の足跡-」2010年11月
(http://www.nagasaki-keizai.co.jp/data/n003/067_01.pdf)

区役所炎上

葛飾区郷土と天文の博物館 専門調査員 勝田 真幸

【はじめに】

東京で「空襲」というと、多くの人が真っ先に思い浮かべるのが、昭和20年(1945)3月10日未明の東京大空襲ではないでしょうか？

325機の B-29爆撃機が東京下町を襲い、M69焼夷弾を中心に、38万1300発、1783トンの爆弾を投下し、東京の市街地の東半分、東京35区の面積の1/3以上に相当する約41平方キロメートルが焼失、死者行方不明者は10万人以上と言われています。

区内でも、「荒川の向こうの空が真っ赤に染まった」という目撃談があります。

【葛飾は空襲が少ない？】

さて、「葛飾は空襲が少ない」と言うのを耳にすることがあります。果たして、本当はどうなのでしょう？

昨年開催した特別展「かつしか学びの玉手箱 -葛飾と戦争-」では、区に残された『B29による空襲被害状況-葛飾区-』という資料を基に区内の空襲被害の状況を改めてまとめました。すると、必ずしもそうではないことが確認できました。

【葛飾の空襲被害】

葛飾区域は交通の便が良く、広大な平地を有する地域であったため多くの軍事に関わる工場がありました。記録から空襲被害のあった地域や施設を見ていくと被害が集中したのは、現在の立石・青戸・新小岩・新宿地区でした。

アメリカ軍は下町の市街地に散在する中小企業や町工場が軍需産業に大きく関わっていると考え、これらを含む市街地すべてを「1つの工業地域」と解釈したのです。その結果、東京の下町一帯が空襲を受け、区内でも工場があった地区以外に被害があるのも、このためだと思われます。

【区内初空襲】

葛飾区を襲った最初の空襲は、昭和17年(1942)4月18日のドーリットル空襲です。太平洋上の空母から陸上爆撃機を発艦させるという奇抜な発想の作戦は、直接被害よりも心理的な影響を狙ったものでした。16機のB29が東日本を中心とする地域を爆撃し、死者約90人、重軽傷者約450人の被害が出ました。

この空襲で区内では水元国民学校が機銃掃射を受け、高等科に通っていた生徒1名が死亡しました。その他、金町駅が爆撃されましたが、駅舎を外れたため、被害はほとんどありませんでした。

【B29による空襲】

初空襲の後、しばらくの間は国内への目立った空襲はありませんでした。しかし、昭和19年(1944)にマリアナ諸島が陥落すると、同年11月24日の東京空襲を皮切りに、マリアナ諸島からの B29による空襲が本格化します。葛飾区でも同年11月29日に、昭和17年4月18日以来の空襲がありました。

この後、終戦までに12回の空襲がありましたが、区内で比較的被害の大きかったのが、昭和20年2月19日・25日・3月4日の3回の空襲です。

【2月25日・3月4日の空襲】

昭和20年2月25日の空襲は、ミーティングハウス1号作戦と称され、高高度からの昼間爆撃でしたが、投下された爆弾のほとんどが焼夷弾でした。そしてこの空襲の成功が3月10日未明の東京大空襲（ミーティングハウス2号作戦）へと繋がりました。

区内では、現在の四つ木・東四つ木・立石・青戸・柴又・金町・東金町と、区の南西から北東を結ぶ帯状の範囲を中心に被害があり、死者19人、負傷者25人のほか家屋106軒に被害が出ています。

3月4日の空襲は、現在の西新小岩周辺の工場が狙われたと思われる、焼夷弾ではなく通常爆弾を中心とする空襲でした。

この空襲では、死者28人、負傷者35人、家屋74軒を記録し、特に死者は区内での1回の空襲被害としては最多でした。

【区役所炎上】

さて、13回あった空襲のうちで、最も大きい被害を出したのが2月19日の空襲でした。

この空襲では立石、青戸、東立石、奥戸、細田、水元などが被害を受け、特に、現在はシンフォニーヒルズが建つ場所にあった葛飾区役所庁舎が全焼しました。この区役所は昭和12年(1937)に竣工した一部鉄筋コンクリート造の木造2階建てで、庁内にはガス設備や消火設備、暖房装備を兼ね備えた近代的な区役所でした。

区役所全焼に伴い、区は事前の計画どおり近隣の梅田国民学校に区役所機能を移します。翌日には、本田国民学校と、同校に隣接する清掃事務所、本田戦時託児所、立石軍人会館に移動しました。この仮庁舎は焼失した庁舎跡に庁舎が建設される昭和23年(1948)6月まで利用されました。

そして、空襲によって都下の区役所庁舎が焼失したのはこれが最初でした。

(次ページに続く)

(前ページから続く)

また、この空襲では細田に50発以上の爆弾が投下されました。さらに、高射砲の命中によって1機のB29が細田・高砂・新宿にかけて墜落しました。この2月19日の空襲での被害は、死者24人、負傷者38人、家屋被害は566軒でした。

【おわりに】

葛飾区は太平洋戦争の間、大小合わせて13回の

空襲を受けました。そして、死者123人、負傷者190人の被害が出ています。また、建造物の被害は半壊半焼も含めると1293軒にのぼります。

絶対数だけ見れば、10万人以上が亡くなった3月10日の空襲に比べれば少ないといえます。しかし、その被害は絶対数だけで測れるものではありません。

区役所が戦災で焼失した事実を知る人も少ないであろう現在、博物館として次世代へ語り継いでいく機会を、今後も提供していきたいと思います。



昭和20年(1945)2月19日の空襲で焼失した葛飾区庁舎(昭和12年(1937)竣工)

小合新田の

「北辰一刀流箇条目録」と「萬延英名録」

文化財保護推進委員(西水元地区)

関口 伊織

幕末の萬延元年(1860)刊行の「萬延英名録」、刀剣師・甲冑師・剣槍道具師14名が出資、北辰一刀流の真田範之介^{注1)}と無双刀流の江川主殿^{はんざん}が編纂した刊本です。ここには関八州^{注2)}と甲斐の一部の剣客たちがいるは順に並び、それぞれの剣術流派・在村地・姓名が記され、その数は22流派の616人に及びます。

さて、この英名録に気になる人物が記載されています。それが、比之部に記されている「同流(北辰一刀流)二合半領小鮎村 平野宗四郎」です。

謎なのが在村地です。二郷半領(本文には二合と表記)とは、おおまかに現在の吉川・三郷市域のことです。しかし二郷半領には「小鮎村」は存在しません。小鮎の地名は、応永5(1398)年の史料^{注3)}に記載がありますが、戦国時代には「小合」という表記^{注4)}になり、江戸時代前期には上小合村・下小合村・小合新田に分村しま

す。^{注5)}そして、江戸時代には東葛西領に属していました。では、架空の在村地の宗四郎なる人物は何者なのか？

ここで、注目したのが幕末の小合新田にあった北辰一刀流道場です。当地に残された伝書を授与されたのがまさに「平野惣四郎」なのです。^{注6)}そうすると、この英名録の「宗四郎」は、小合新田の「惣四郎」であると推定されます。

英名録の謎は解けました。しかし、在村地を実際と違えたのはなぜか？真相は分かりません。ただ、地域の歴史に精通した者が苦心の末に編み出したとか思えないのもまた事実です。



『万延武術英名録 比之部』万延元年(1860)

足立区立郷土博物館『幕末が生んだ遺産』展示図録より転載

注1) 武蔵国多摩出身の勤王志士、天然理心流・北辰一刀流を学ぶ。玄武館塾生を連れ、水戸天狗党に合流を図るが失敗、江戸市中警護の新徴組に斬られ死去。

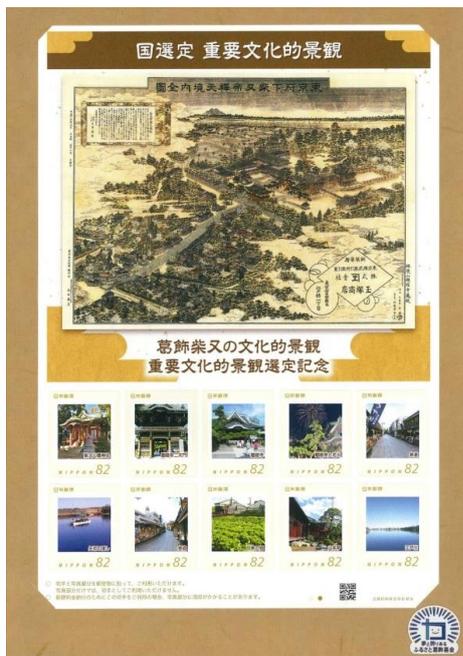
注2) 江戸時代、関東8か国の総称。相模・武蔵・安房・上総・下総・常陸・上野・下野

注3) 葛西御厨田数注文 注4) 小田原衆所領役帳 注5) 正保国絵図及び武蔵田園簿 注6) かつしかの文化財第90号参照

国選定重要文化的景観

葛飾柴又の文化的景観選定記念切手 販売中！

平成30年2月13日に「葛飾柴又の文化的景観」が東京都内で初めてとなる重要文化的景観に選定されてから早1年、葛飾区では選定を記念する記念切手を作成、今年2月7日から販売しています。



この記念切手は、葛飾柴又の文化的景観を構成する多くのピースの中から写真10枚を厳選、さらに大正15年(1926)に描かれた帝釈天題経寺と参道を描いた鳥瞰図を掲載し、現在の柴又との対比も感じ取れるデザインとしました。

さらに台紙の裏面には、手軽に「葛飾柴又の文化的景観」を知っていただけるように、範囲図や解説を掲載しています。

なお、価格や販売場所は以下のとおりです。

【販売場所】

下町や（柴又4-9-5柴又観光案内所内）
葛飾区郷土と天文の博物館（白鳥3-25-1）
葛飾区役所区政情報コーナー（区役所3階304番）
※郵便局では販売していません。

【価格】

1,500円（税込）

【セット内容】

82円切手×10枚（限定2,000セット）

【予告】 葛飾探検団「定点観測 立石2018」写真展を開催します

「葛飾探検団」は、葛飾区郷土と天文の博物館のボランティア団体で、近代以降の葛飾の暮らしや文化、街の風景の記録、調査に取り組んでいます。

今年度の調査主題は「立石」。近年、急速な発展によって、目まぐるしい変貌を遂げている地区です。そんな立石の「いま」と「むかし」を、「仲見世」「伝統技術」「駅」「縁日」「区役所」という5テーマから調査しました。

時代の流れとともに多くの景観が姿を変えましたが、今も立石に息づく人々の営みを写真などで紹介します。

【会 期】 3月31日（日）～ 5月6日（月・祝）

【会 場】 葛飾区郷土と天文の博物館（葛飾区白鳥 3-25-1） 2階特別企画展示室

【入 館 料】 大人 100 円、小・中学生 50 円、未就学児無料（土曜日は中学生以下無料）

【開館時間】 午前9時～午後5時

（金・土は午後9時まで開館、ただし金・土が祝日の場合は午後5時閉館）

【休 館 日】 月曜日（祝日は開館）、第2・4火曜日（祝日は開館し、直後の平日が休館）

※4月27日（土）～5月6日（月・祝）の大型連休中は全日開館しています。

※展示会の詳細は、博物館ウェブサイト(<http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>)でも公開してまいります。

【編集後記】

平成最後の「かつしかの文化財」である、「かつしかの文化財 第92号」の発行になりました。今回の改元は、天皇陛下の退位によるものですが、天皇陛下が生前退位したのは、119代光格天皇以来、約200年ぶりだそうです。

元号は、紀元前115年頃に中国から始まり、周辺各国へ広がったものだそうです。日本の元号のほとんどが中国の古典に由来しており、特に「四書五経」という儒教の中で特に重要とされる経書から選ばれています。そして、日本で最初の元号「大化」が定められた西暦645年、以来「平成」まで約250*の元号があるそうです。

平成は、「国の内外、天地とも平和が達成される」という意味が込められているようです。新しい元号の時代になっても平和であることを願っております。

（林 力）

※国が定めた元号(公年号)以外の年号である私年号を含む